

R3年度 学校教育自己診断の結果について

1) 生徒結果について

- ①質問 1～5 学校生活全般において、肯定感が非常に高い傾向であり、学校に行くことが楽しみな生徒が多く、良き先生や友人にも恵まれている生徒が多いと思われる。
- ②質問 16 生活指導面においては、先生の指導に納得のいかない生徒もいるが、規律面の指導も対外的な活動が多いために必要不可欠である。
- ③質問 23、24 放課後の活動については、実習があり、生徒会クラブと農業クラブの両立が難しいと思われる。
- ④質問 27、28 教育相談について、特に指導が必要な生徒以外は係わる場面が少なく意識としては低い傾向がある。ただし、近年、教育相談の必要な生徒も一定数おり、増加しているように思われる。特に、コロナの影響により不登校傾向を示す生徒もおり、益々重要性を増してくると思われる。
- ⑤質問 30 日頃から命と向き合う場面も多く特に、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定感が非常に高い、農芸高校の目標である命の大切さを学んでいることがわかる。
- ⑥質問 38 災害時の対処については、防災訓練もコロナの影響で簡素化された影響もあると思われる。

2) 保護者結果について

全般的な部分について

保護者の回答の肯定感が80%を超え、非常に評価が高い。
一部低いものは、施設設備面で低いが、今年度末には国の予算で更新が行われ、次年度のアンケート結果が改善されることに期待したい。

3) 教員アンケートについて

全般的な部分について

生徒・保護者の肯定感に比べ、教員の肯定感は非常に低い。

- ①質問 3 「農芸高校の教員は、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の数値が低い、今後、総括会議などで改善できる部分は善策を図る予定である。
- ②質問 12 「生徒の問題行動がおきた時、組織的に対応できる体制が整っている。」について組織的な動きがとれていなかった部分があり、今後見直しを図る必要がある。
- ③質問 26 人権教育において、参加体験型の学習がコロナの影響で出来なかった影響と思われる。

④質問 28～31 について、人事的な部分で、組織を改革するための中堅層がおらず人材不足が否めない状態である。また、中心となっていた教員も退職を迎え、より人材育成の重要性が増している。特に、中学校でコロナの影響で指導が不十分のまま高校へ入学してきているように思われ、生活指導面での改革も必要である。

⑤その他の項目も含めての考察

コロナの影響により、校外研修の減少、学習指導のオンライン化に伴う業務の増加、生徒指導の必要な生徒の増加など、情勢は様々な変化に合わせ指導も変化するため、教員の同意のないまま業務が大きく変革しているのが現状で、教員の多忙感がピークを迎えていると思われる。